



▲センター白岩脇にある舟小屋、一昔はこれが幾つも並んでいたのだが...



▲かまどなどに使った間瀬石の石切場(石山と呼んでいる)を望む

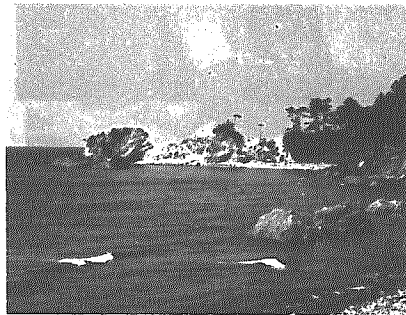


▲間瀬小学校から高屋地区を望む



これで岩室村二十六地区(和納と間瀬はそれぞれ一地区としました)めぐりをしてきたわけですが、みなさんはどんなことを感じとれましたか。ここでお話ししたことはその地区のほんの一面にすぎません。しかし、ほんの一面でもそこには良さがあふれ、また悪さもあふれます。そうしたことを正しく知ることから、これからの岩室村の発展があるのだと思います。未来を見つめ、私たちのふるさと、岩室が限りなく躍進するために、今何をすればよいのか、みんなで考えていかなければならないのではないのでしょうか。

### 後記(エピローグ)



誰にも故郷があるように、誰の心の中にも「私の散歩道」があるのではないのでしょうか。特に時間を割いて歩くというのではなく、あの景色が好き、そういつた心はみんなが持っていると思います。日常の喧騒から逃れて、心静かなひとときを過ごせる場を持つことは、今、住みよい地域づくりのひとつの要になっています。幸い、岩室は海と山と平野—水と緑と太陽に恵まれた村です。日本海の夕陽に、丸小山公園の緑に、しばしくつろぐとき、私たちは心のやすらぎを感じる。

### やすらぎのある風景



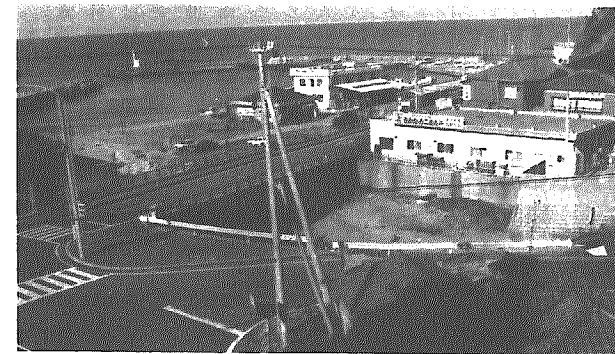
▲「フンドシのような…」と形容される間瀬の家並み(間瀬研修所=旧間瀬中学校から)

海辺の地区・間瀬——一本の道に沿って家並が続く「フンドシ街」。本村の一番西側、日本海沿いに開けた間瀬は岩室村と合併(昭和三十年三月三十日に合併した)するまでは一村を形成していました。昭和四十九年県下二番目の有料道路「越後七浦シーサイドライン」が開通してから環境が一変した地区です。夏はこ

の地区にとって最高の季節で海水浴の適地として賑わいを見せる。ここから青い日本海越しに望む佐渡が島は格別に美しい。また、景勝白岩付近には、ここを南限とするバシクロモンや北限とするソボクサなど植物の宝庫としても知られています。さらに、この地区には四つの寺院があり、歴史学上でも注目されています。

## 間瀬

- 1区...50世帯・136人
- 2区...35世帯・97人
- 3区...45世帯・123人
- 4区...42世帯・96人
- 5区...40世帯・129人
- 6区...53世帯・162人
- 7区...61世帯・197人
- 合計...326世帯・940人



▲八幡神社から間瀬漁港を望む



▲海辺の町によく見られた竹の風よけ—今ではめずらしくなった



▲久しぶりのなぎの日—漁港は活気づく...